

初辰まいり

住吉大社への参拝者が求めるご利益の一つに「商売繁盛」がある。住吉の4つの末社に祀られている神様は商売繁盛の神様として信仰されているが、その神様のご利益を得るために行うのが「初辰まいり」である。

初辰まいりは、中国の旧暦で12日と定められた月の最初の辰の日に四社を詣でて行われる。このならわしは、「初辰（はつたつ）」が、日本語の「成長、発達」の同音異義語であるという、一種の神聖な言葉遊びに由来している。参拝者はお供えをし、種貸社、楠珺社、浅澤社、大歳社の各神社で順番に参拝する。浅澤社、大歳社の2社は住吉大社の境内からすぐのところにある。初辰まいりの日には、食べ物やお土産の屋台が並び、まるでお祭りのような雰囲気になる。

これをバージョンアップさせたものが「みのりまいり」である。初辰まいりの再訪者が種貸社で粃種を買い、楠珺社で稲穂と交換し、大歳社で住吉大社の御神田で栽培された米の小袋と交換するというものである。これは「一粒万倍」（一粒の粃種が万倍もの稲穂に育つ）という言葉にちなんだもので、「今の小さな投資が将来大きな利益を生む」という意味である。

この「初辰まいり」を4年間、48ヶ月間続けて行くと、その繁栄は一生続くと言われている。この信仰はもう一つの神聖な語呂合わせに基づいている。日本語で「四十八辰」が「最初から最後まで発展する」という言葉のように聞こえるからである。